

特別優秀賞

毎日が「はじめまして」

香川県 西中学校 2年 庄野海和

私は、毎朝友達と公園で待ち合わせをしています。そして、毎朝そこで会うおばあちゃんがいます。そのおばあちゃんは認知症で、毎日会っているけれど、毎日私のことを忘れていきます。毎日会っているけれど、次の日の朝になると、私のことを覚えていないのです。つまり、おばあちゃんにとって私は、毎朝初めて会う人なのです。

そのおばあちゃんは、毎朝同じ話をします。亡くなった旦那さんの話です。

「私の旦那はね。」

と、自慢話をしてくれます。その話は、私にとってはもう何十回も聞いた話です。でも私は、毎朝知らなかったふりをします。

おばあちゃんは、毎朝心配してくれます。

「勉強はちゃんとしてる？」

「気をつけて行ってね。」

と、言ってくれます。それに私は、毎朝笑顔で答えます。

おばあちゃんは、施設に通っていて、毎朝迎えの車が来ます。私は、友達がくるのを待つ間、施設の迎えの車が来るまで、おばあちゃんと話しています。

よく、テレビなどで、若い人がお年寄りの方をからかっているのを見ますが、とてもひどいと思います。自分が年を取ったときに、そのときのことを思い出して何を思うのでしょうか。自分のおじいちゃんやおばあちゃんがそんなことされたら、どう感じるのでしょうか。私なら、すごく悲しいし、腹が立ちます。だから、誰にでもやさしくすることは大切なのだと思いました。

ある日、私は母と買い物をしていました。すると、そのおばあちゃんがありました。私がおばあちゃんに、

「こんにちは。」と、言うと、おばあちゃんは、私のことを忘れていて、少し悲しい気持ちになりました。すると、おばあちゃんの息子さんが、

「母のことを知ってるんだね。ありがとう。」

と、笑顔で言ってくれました。慣れているのかな、と思いました。

おばあちゃんは、毎日私のことを忘れてしまいます。でも、私は悲しくありません。それは、毎日私のことを知ってくれるからです。毎日忘れられても、次の日にまた覚えてくれます。だから私は、毎朝同じ質問に、同じ答えを言います。おばあちゃんは、答えを知らないので、答えます。おばあちゃんがやさしい人だからです。待っていた友達がきて、

「行ってきます。」

と言ってから、私たちが見えなくなるまで手を振ってくれているからです。

私は、毎朝おばあちゃんとの会話が楽しみです。その話が、毎朝同じ話だとしてもです。私は、その話を知っていても、知らなかったふりをしてしまいます。「それでね」と、楽しそうに話してくれるおばあちゃんを見ているとうれしいからです。だから私は、毎朝おばあちゃんに会いに行きます。